



## 女性の視点で "市民協働のまちづくり" 新春 市長と語ろう

1月26日(金)、昨年リニューアルした郷土資料館NoNoで「新春 市長と語ろう」が開催され、市女性協議会の会員13人が栗市長を囲み、まちづくりについて話し合いました。会の冒頭、市長は、能登半島地震による被害状況や市内で開設した二次避難所の様子、今後の事業計画などについて説明。会員からは、災害時のトイレ対策として「トイレトレーラーの有効性」や被災者向けの「空き家住宅の活用策」など、さまざまな提案もあり、活発な意見交換が行われました。

## 海を大事にしないなんてもったいない！ 認定こども園などでのSDGs推進

市は今年度、市内認定こども園など向けにSDGs推進のための補助制度を新設しました。はくさん保育園では、制度を活用してSDGsに関する絵本や書籍を購入し、読み聞かせを行っています。1月30日(火)には、5才児クラスで絵本『もったいないばあさん かわをゆく』を読み聞かせた後、物語に絡め、魚ではなく海に捨てられたごみを釣る「釣りゲーム」を実施しました。釣ったごみは子どもたちが分別してごみ箱へ。その後、SDGs○×ゲームでも大盛り上がりし、SDGsへの理解を深めました。



「ごみがあると魚が死んじゃう！」と、競ってごみを釣りました。



会場でひときわ目立っていたタコを題材とした作品。

## 陶芸で「好き」を表現する カレード陶芸教室生徒作品展

2月4日(日)～10日(土)にカレード陶芸教室生徒作品展が開かれ、今年度カレード陶芸教室に通った19人の作品が展示されました。作者の趣味と陶芸が掛け合わされ、形も色も雰囲気もさまざまに表現された作品たち。繊細な模様のブローチに、お気に入りのキャラクターを描いた皿、優しい顔をした猫の置物など、作者の好きが詰まった世界が広がります。

4月から始まる来年度の講座の案内は、本紙16ページに掲載していますので、ぜひ確認ください。



さまざまな母音・子音の書き順や発音を学びました。

## ハングルで自分の名前を書いてみよう 国際交流カフェ ハングル講座

国際交流カフェは、ニュージーランド出身の国際交流員(CIR) チョ・ジヒョンがさまざまなテーマで海外の文化を紹介する恒例イベントです。2月10日(土)には、にぎわいの里のいち カミーノで市民20人が韓国の文字“ハングル”を学びました。「ハングルは絶対に子音+母音なので、a(あ)にも子音が要ります」など、英語や日本語との違いに会場からは驚きの声が上がります。最後はハングルで名前を書くことに挑戦。苦戦しながらも、学んだことを生かし取り組んでいました。

# まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 (☎ 227-6056)

## 物資と思いを被災地へ届ける

### 令和6年能登半島地震 支援物資の搬送

市では1月9日(火)～12日(金)に個人からの支援物資受け入れを行い、311人の皆さんから多くの善意が寄せられました。関係機関との調整の結果、寄せられた物資は輪島市の門前健民体育館へ届けられました。

市と災害協定を締結している佐川急便株式会社が物資の搬送を担い、1月26日(金)に市役所正面ロータリーで物資の積み込みが行われました。出発に際し栗市長は「支援物資と私たちの思いを輪島の皆さんへ届けていただきたい」と激励。佐川急便北陸支店の町田支店長は「大切な支援物資、思いとともにしっかりと届けさせていただきます」と意気込みを語りました。物資を載せた4トントラックは、翌27日(土)に佐川急便白山営業所を出発し、輪島市へ物資を届けました。



①②④⑤佐川急便白山営業所の皆さんがテキパキと積み込みます  
③栗市長からの激励



自分で選んだ候補者名を書き、投票箱に入れる児童。

## 館野小学校で模擬選挙

### 未来の有権者啓発事業

市では若者の政治や選挙に対する意識の向上を図るために、小中学生を対象に模擬選挙を実施しています。1月19日(金)には館野小学校6年生が市長選挙模擬投票を体験しました。模擬選挙では本物の投票箱などを利用し、実際の選挙と同じ手順で投票や運営、開票作業を行います。投票は意外と簡単。しかし、投じるのはより良い社会をつくるための大切な1票です。参加した児童は「18歳になったら積極的に選挙に行こうと思います」と未来の有権者としての自覚を得たようです。



時間をかけて選ぶ来場者が多くいました。  
体验コーナーでは気軽に可愛いコモノを作成

## 手作りコモノに心ときめく

### 1の1ハンドメイドクラフトマーケット

1月21日(日)、にぎわいの里のいち カミーノで1の1ハンドメイドクラフトマーケットが開催され、地元を中心としたハンドメイド作家が手作りしたぬくもり溢れる小物や菓子が並びました。丁寧に作られた小物はそれぞれに個性があり、どれも魅力的。来場者は手に取り眺めて、また製作者と話し、じっくり悩みながらお気に入りの1品を選んでいました。

今回は募金箱も設置され、売り上げの一部とともに令和6年能登半島地震の被災地に送られました。